

平成27年産 春野菜の需給・価格の実績

<概要>

1. 気象

- 4月は、中旬までは前線の影響で天気の良い日が多かったため、東・西日本太平洋側では日照時間は少なかった。また、平均気温は、上・中旬は南からの暖かい空気が流れ込みやすく、下旬は移動性高気圧に覆われたため全国的に高く、西日本ではかなり高かった。降水量については、西日本日本海側では、上・中旬に日本海で低気圧がたびたび通過した影響で多かった。
- 5月は、北日本太平洋側と東日本日本海側では、高気圧に覆われる日が多かったことから、日照時間は1946年統計開始以来5月としては最も多かった。また、平均気温は、南西からの暖かい空気が流れ込んだことなどから全国的に気温は高く、北・東日本では統計開始以来5月としては、55地点でこれまでの記録を更新した。降水量については、東日本太平洋側を中心にかなり少なかった。また、梅雨前線が停滞しなかった沖縄・奄美地方では、梅雨入りがかなり遅かった。
- 6月は、西日本や北日本日本海側では少なかった。一方、東日本日本海側や沖縄・奄美地方は多かった。また、平均気温は、太平洋高気圧の張出しが強かった、沖縄・奄美地方では、統計開始以来最も高温となった。降水量は、梅雨前線が九州南部付近に停滞しやすく、活発な活動が続き、九州南部では、統計開始以来最も多かった。

2. 生産・供給

- 春キャベツは、千葉県産や神奈川県産などにおいて、5月までは、天候不順による収穫の遅れや、干ばつの影響などから前年を下回った。6月に入り降雨により生育も回復し、前年を上回ったが、期間全体では前年同となった。
- 春だいこんは、青森県産において、天候に恵まれ生育が順調であったが、千葉県産において降雨等の天候不順による生育遅れで収穫遅れなどがあったことから、期間全体では前年をやや下回った。
- たまねぎは、産地切り替え時期で、主産県の北海道産は、終盤を迎える中順調な出荷であったが、後続の佐賀県産において、降雨による出荷の遅れや、干ばつの影響による小玉傾向、病害の発生などがあったことから、前年を下回り、期間全体では、ほぼ平年並みとなった。
- 春夏にんじんは、徳島県産において病害の影響もなく順調な生育であったが降雨による収穫遅れ、千葉県産は天候不順による生育遅延があり、6月以降、埼玉県産や東北産が順調な生育で入荷が伸びたものの、期間全体では前年をやや下回った。
- 春はくさいは、5月までは茨城県産において、天候不順による収穫遅れや干ばつ等の影響で前年はかなり下回ったことから、6月に長野県産及び群馬県産が順調な出荷であったものの、期間全体では前年をやや下回った。
- 春レタスは、5月までは茨城県産において、天候不順などによる収穫遅れなどから、前年を下回ったが、6月に入り群馬県産において、生育が順調で前年を上回る入荷となったものの、期間全体では、ほぼ前年並みとなった。

3. 需要・価格

- 春キャベツは、5月までは、前年を大幅に上回った。6月に入って値を上げたものの、期間全体で前年を大幅に上回った。
- 春だいこんは、5月中旬までは前年を大幅に上回って推移したが、5月下旬から6月上旬にかけて前年並みまで値を下げたが、期間全体では前年を大幅に上回った。
- たまねぎは、5月中旬までは前年を下回る旬が多かったが、5月下旬以降は高値であった前年を上回って推移したことから、期間全体では前年を大幅に上回った。
- 春夏にんじんは、4月は安かった前年を上回ったものの、5月以降は前年を大幅に上回ったことから、期間全体で前年を大幅に上回った。
- 春はくさいは、4月中旬にかけて急騰し一時的に下落したものの、加工筋の需要が強かったことも要因と考えられ、高値水準で推移したことから、期間全体では前年を大幅に上回った。
- 春レタスは、4月は中旬に急騰し4月下旬後半から値を下げたものの、5月以降、高値で推移し、6月中旬か前年並みに落ち着いたものの、期間全体では、前年を大幅に上回った。

1. 平成27年産春キャベツの需給・価格の実績

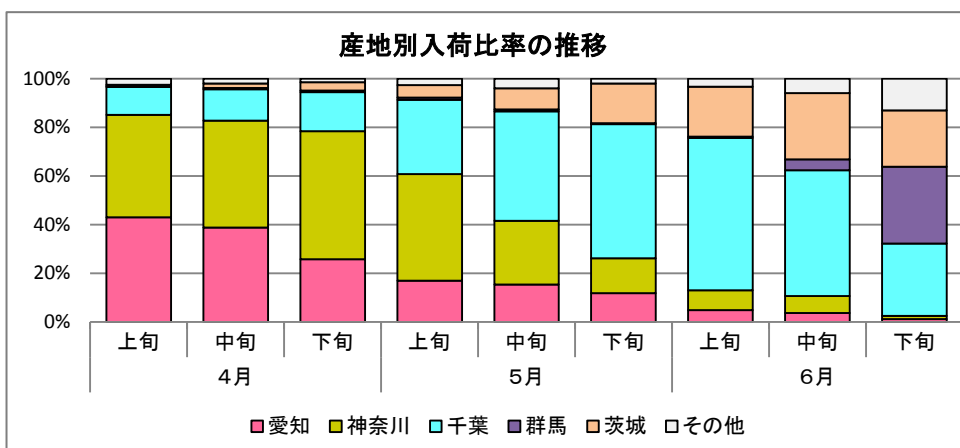
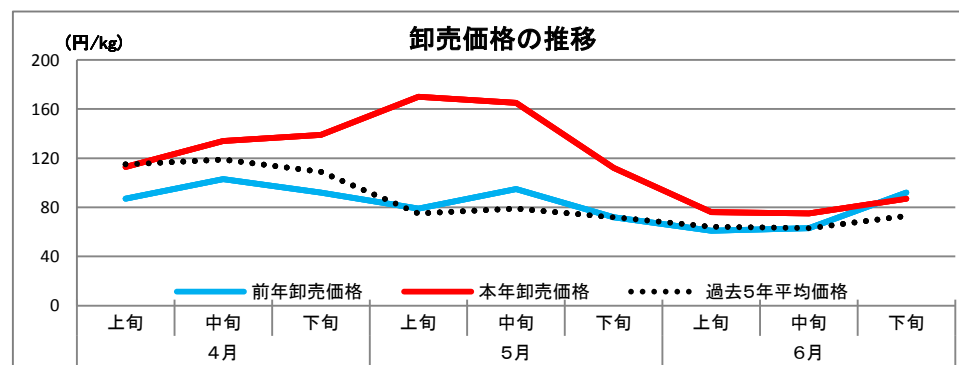
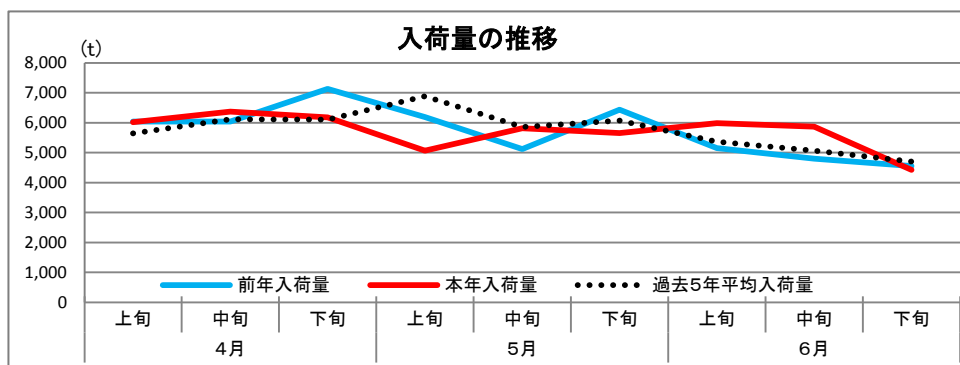
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
春キャベツ (4～6月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、現在雨も多く気温が高いことから、4月に入り病害の発生の懸念はあるものの、全体的には概ね生育は順調なことから、期間を通じて前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、主産地の愛知県産や千葉県産において順調に生育することが見込まれることから、期間を通じて前年並みの見込み。 加工・業務用は、現在、中国産の使用は例年の半分程度であり、今後も国内産の順調な出荷が見込まれることから、本年は国内産へのシフトが見込まれる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、愛知県産や神奈川県産において、上旬は天候に恵まれたことから生育はおおむね順調であったことから上旬は前年並みとなり、中旬は、前年をかなり上回ったものの降雨等による収穫遅れなどで前年をかなり下回ったことから前年をやや下回った。 5月は、千葉県産において、干ばつ傾向による生育遅れや、神奈川県産において、出荷のピークが過ぎたこともあり減少傾向であったことから前年を下回った。 6月は、千葉県産において、おおむね生育が順調で月を通して前年を上回ったことや、茨城県産において干ばつの影響はあったが、その後の降雨により生育が回復したこと等から下旬は前年をやや下回ったものの、前年をかなり上回った。 期間全体としては、前年同となり、平年並みとなった。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:100%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、中旬半ばにかけて上げ基調で推移し、中旬に一時値を下げたが下旬に再び上げ基調となったことから、安値であった前年を大幅に上回った。 5月は、上旬は前年を上回る高値であったが、中旬以降、値を下げたものの、安かった前年の約2倍と大きく上回った。 6月は、中旬半ばにかけては、下げ基調となったものの、その後、日を追うごとに値を上げたことから、前年をかなり上回った。 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:143%)

(参考1) 平成27年産春キャベツの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	100	106	87	82	113	88	116	122	97	100
	97			93			112			
過去5年平均比	107	104	101	74	99	93	112	116	94	99
	104			88			108			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	130	130	151	215	174	156	125	119	95	143
	137			183			110			
過去5年平均比	98	113	128	227	209	156	119	119	119	137
	112			195			118			

(参考2) 平成27年産春キャベツの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

2. 平成27年産春だいこんの需給・価格の実績

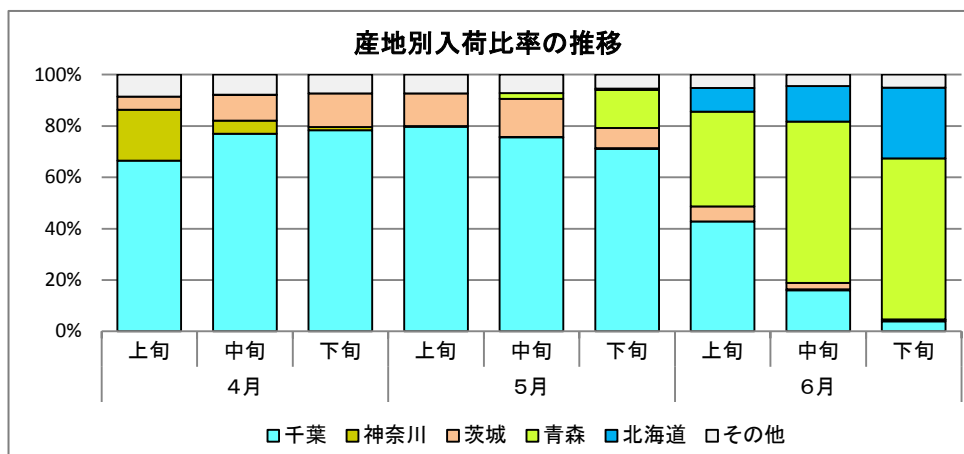
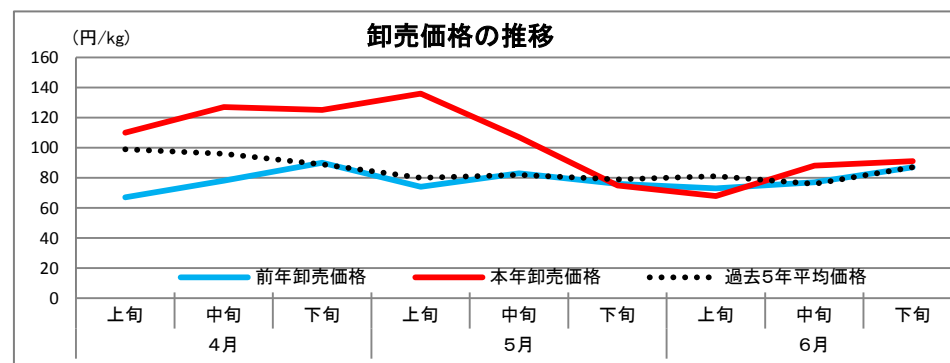
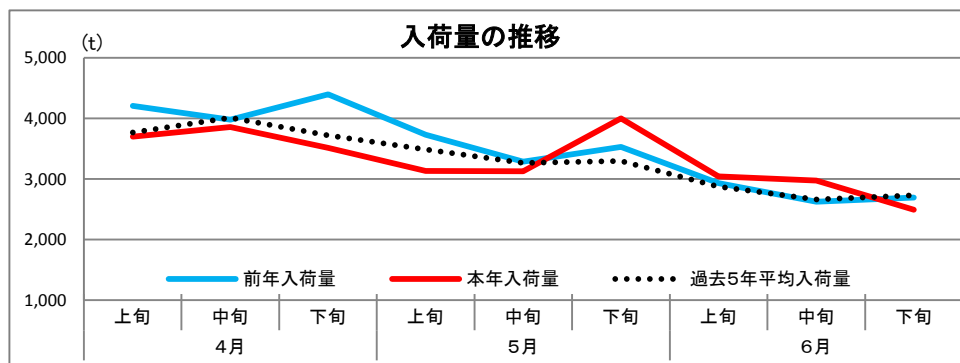
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
春だいこん (4～6月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出荷量は、主産地である千葉県産を中心に生育が順調であることから、期間を通じてほぼ前年並みの見込み。現在の多雨等の影響もあり、4月下旬から5月上旬に一時、出荷の谷間ができる可能性がある。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 価格は、主産地において順調な生育が見込まれることから、期間を通じて前年並みの見込み。 ● 加工・業務用は、これまでの神奈川県三浦産から茨城県産や千葉県産にシフトしていく時期であり、生育が遅れているとの情報があるものの、業界に与える影響は小さいと考えられる。また、例年4月の相場が上向き加工メーカーにとって入手しにくい時期ではあるが、今年の手入は順調と見込まれる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月は、主産地の千葉県産において、上中旬の降雨による収穫遅れと、下旬には前年の秋冬物と春物の出荷が重なり出荷量が多かった前年を下回った。 ● 5月は、千葉県産において、上中旬は天候不順による肥大遅れで前年を下回り、下旬は適度な降雨で肥大が進み集荷が伸びたものの前年を大きく下回った前年をやや下回った。 ● 6月は、千葉県産において、出荷の終盤を迎えて中旬以降、入荷量が減少したものの、青森県において干ばつ傾向であったが適度な降雨で肥大が回復したことから前年並みであった前年を上回った。 ● 期間全体としては、前年をやや下回り、前年同となった。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:95%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 4月は、上旬かあら上げ基調で推移し、中旬に入り一時的に値を下げたものの、安かった前年の1.5倍と大幅に上回った。 ● 5月は、4月からの高値は、上旬の後半から下げ基調となり、下旬は前年並みであったものの、中旬までが高かったことから前年を大幅に上回った。 ● 6月は、上旬は前年を下回ったが、その後上げ基調となり前年を上回って推移したことから、前年をやや上回った。 ● 期間全体としては、前年及び前年ともに大幅に上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:133%)

(参考1) 平成27年産春だいこんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	88	97	80	84	95	113	104	113	93	95
	88			97			103			
過去5年平均比	98	96	94	90	96	121	106	112	91	100
	96			102			103			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	164	163	139	184	129	99	93	114	105	133
	153			135			104			
過去5年平均比	111	132	140	170	130	95	84	116	105	121
	127			130			101			

(参考2) 平成27年産春だいこんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

3. 平成27年産たまねぎの需給・価格の実績

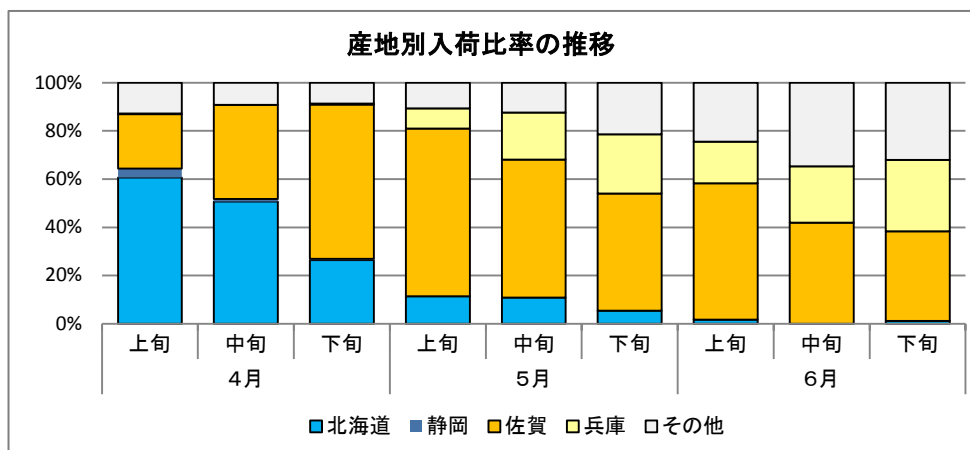
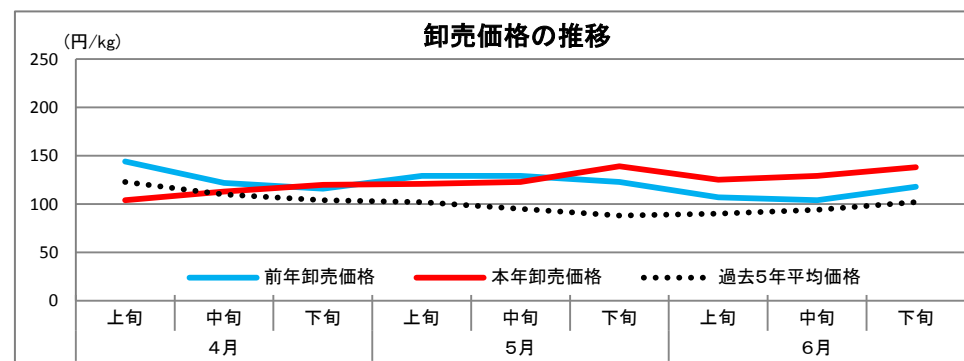
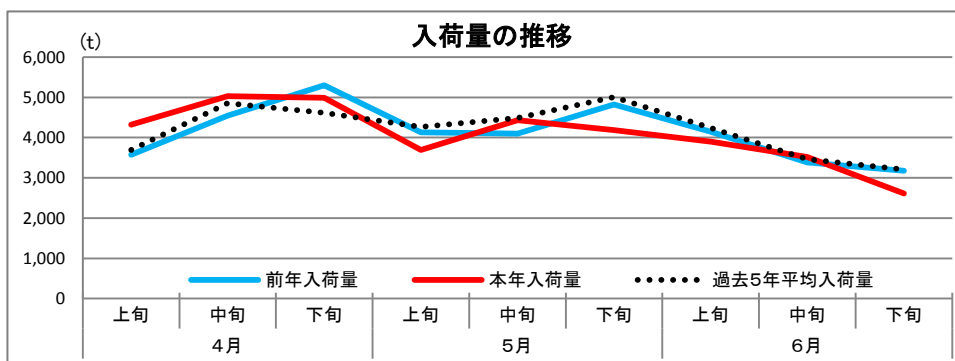
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
<p>たまねぎ (4～6月)</p>	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、4月と5月はほぼ前年並みと見込まれるが、6月は佐賀県産がこの時期に出荷される面積が減少していること等から前年を下回る見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、佐賀県産などで病害の影響も懸念されるものの、概ね順調な出荷が見込まれることから前年並みの見込み。 加工・業務用では、中国産は、昨年の残留農薬問題や国内価格が安かったことから、27年産の作付面積は減少するという情報がある。ただし、国内産が順調に生育すれば影響は小さいと考えられる。また、円安により中国産との価格差が小さくなったこともあり、国内産へシフトする業者も増えている。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、北海道が終盤を迎え、中旬までは前年を上回った。後続の佐賀県産において、降雨による影響で収穫遅れがあり前年を下回ったものの、北海道産が小玉で少なかった前年を大きく上回ったことから前年を上回った。 5月は、主産地の佐賀県産において、上中旬に前月の降雨による出荷遅れや、下旬は出荷のピークが過ぎたことに加え小玉傾向であったことから前年をかなり下回った。 6月は、兵庫県産において、病害の発生も見受けられず、順調に生育し安定した出荷となったものの、佐賀県産において、干ばつの影響による小玉傾向や病害も発生したことから前年をかなり下回った。 期間全体としては、少なかった前年並みとなり、平年をやや下回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:99%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、北海道産の入荷量が前年を上回ったものの、高かった前年をかなり下回った。 5月は、中旬以降、日を追うごとに値を上げたことから、高値であった前年並みとなった。 6月は、月を通じて緩やかな上げ基調となったことから、高値であった前年を大幅に上回った。 期間全体としては、前年並み、平年を大幅に上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:101%)

(参考1) 平成27年産たまねぎの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	121	111	94	89	108	87	94	104	82	99
	107			94			94			
過去5年平均比	117	104	108	87	99	84	92	102	81	97
	109			89			92			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	72	93	103	94	95	113	117	124	117	101
	90			101			118			
過去5年平均比	85	103	115	119	129	158	139	137	135	122
	101			136			137			

(参考2) 平成27年産たまねぎの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

4. 平成27年産春夏にんじんの需給・価格の実績

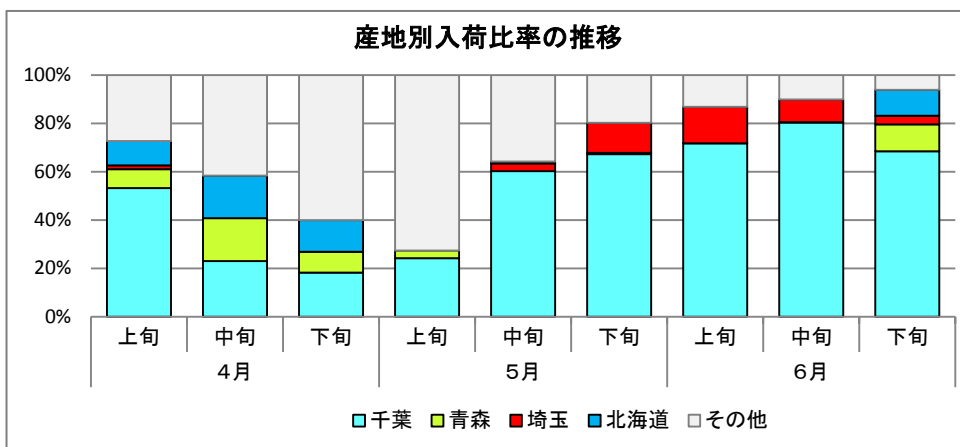
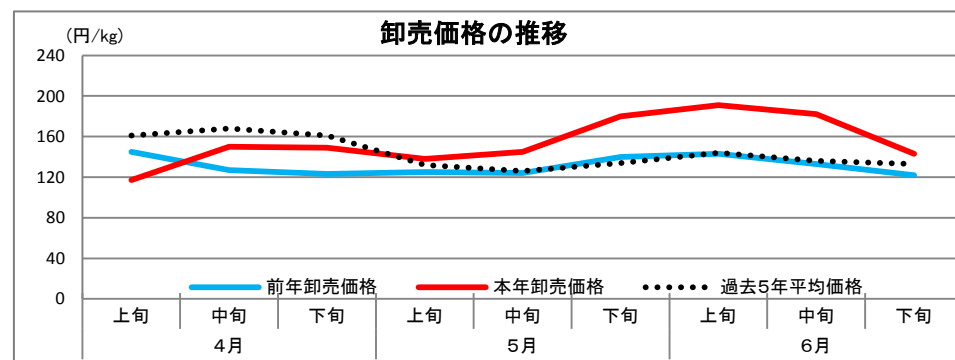
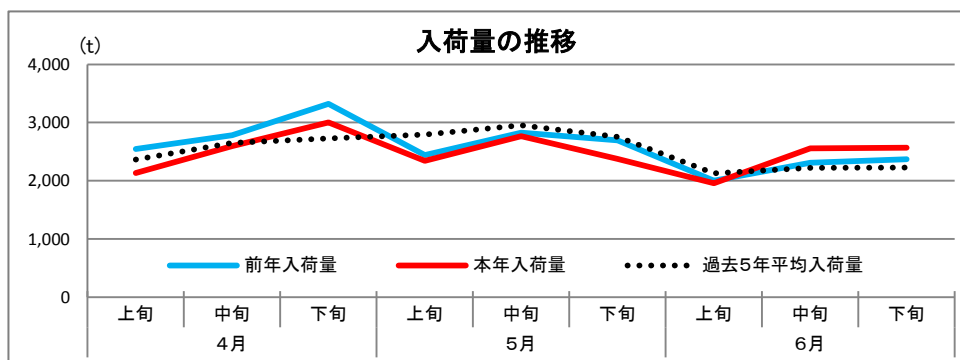
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
春夏にんじん (4～6月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、主産地の生育も順調なことからも、期間を通じてほぼ前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、順調な出荷が見込まれることから、期間を通じて前年並みの見込み。 加工・業務用では、この時期の中国産の品質は良いものの、円安により価格差が小さくなったことから国内産にシフトする動きが強まっている。また、加工用の産地の開拓も進んでいる。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、徳島県産において、本格的な出荷時期を迎えて生育は順調であったものの、降雨による収穫遅れから前年をかなり大きく下回った。 5月は、徳島県産において、病害もなく生育は順調であったものの、降雨による収穫遅れや、千葉県産において、天候不順による生育遅れなどから前年をかなり下回った。 6月は、千葉県産において、生育遅れで小ぶりとなったことから前年を下回ったが、埼玉県産や東北産の生育が順調に入荷が伸びたことから前年をかなり上回った。 期間全体としては、前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:96%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、中旬までは上げ基調であったが、下旬は下げ基調となったことから平年を下回ったが、安かった前年をかなり上回った。 5月は、中旬以降上げ基調に転じ、日を追うごとに値を上げたことから前年を大幅に上回った。 6月は、中旬までは前年を大幅に上回ったが、下旬に入り日を追うごとに値を下げたものの、前年を大幅に上回った。 期間全体としては、前年は大幅に上回り、平年をかなり上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:118%)

(参考1) 平成27年産春夏にんじんの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	84	93	90	96	98	88	98	111	108	96
	89			94			106			
過去5年平均比	90	98	110	84	94	86	92	115	115	98
	100			88			108			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	81	118	121	110	117	129	134	137	117	118
	108			118			130			
過去5年平均比	73	89	93	105	115	134	133	134	108	108
	87			118			125			

(参考2) 平成27年産春夏にんじんの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

5. 平成27年産春はくさいの需給・価格の実績

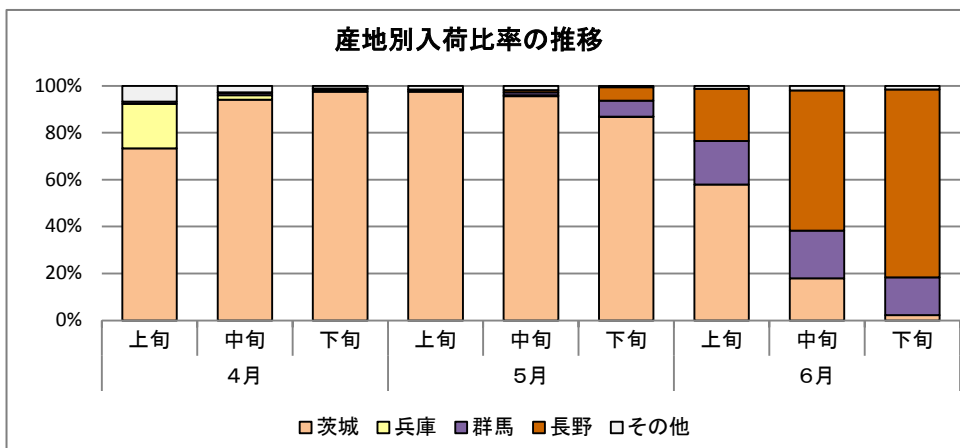
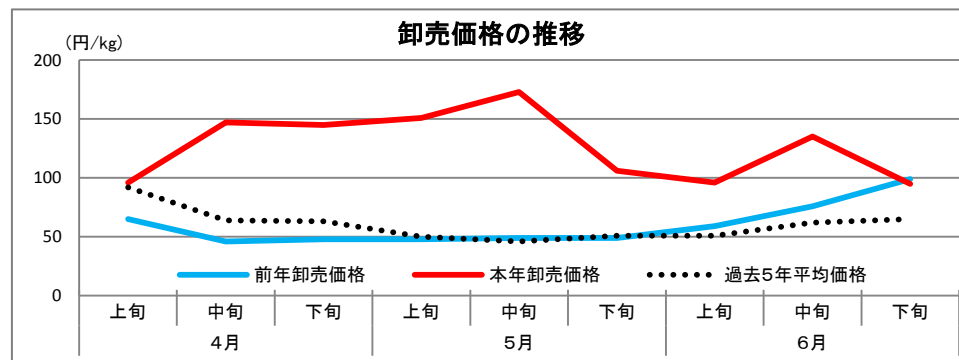
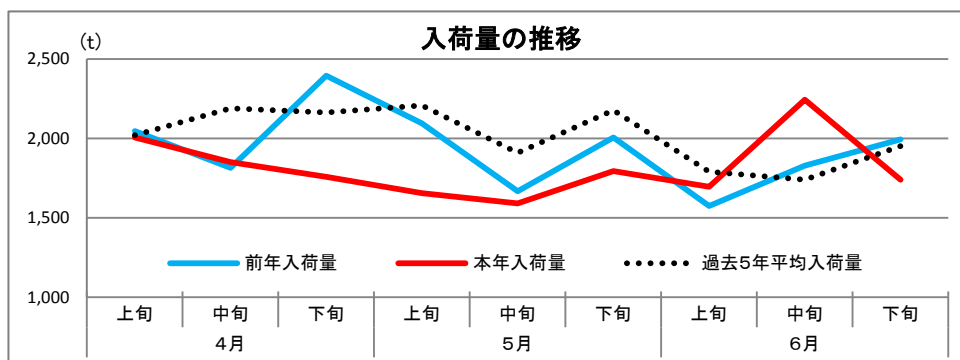
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
春はくさい (4～6月)	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、近年のこの時期の価格が安かった影響で作付面積が減少していること等から、4月から5月は前年を下回る見込み。6月は、長野県産の生育も順調であることから前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、4月及び5月は、入荷量が減少すると見込まれることから、前年を上回る見込み。6月は順調な出荷が見込まれることから、高かった前年を下回る見込み。 加工・業務用は、現在、在庫が多めの業者もいるが、それ以外の業者が市場から購入する場合には、価格変動要因となる可能性がある。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、主産地の茨城県産において、天候の影響もなく順調で、降雪の影響で端境期となり少なかった前年を上回ったが、下旬は出荷量が多かった前年を下回ったことから前年をかなり下回った。 5月は、主産地の茨城県産において、中旬までは降雨、低温及び日照不足などの影響による収穫遅れと、下旬は干ばつなどの影響があったことから前年をかなり大きく下回った。 6月は、茨城県産において、出荷の終盤を迎えたこともあり入荷量が減少したものの、本格的な出荷を迎えた後発の長野県産及び群馬県産において、おおむね生育が順調であったことから前年をやや上回った。 期間全体としては、前年及び平年ともにかなり下回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:94%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、上旬に急騰し、その後も高値水準で推移したことから、安値であった前年の約2.4倍と大幅に上回った。 5月は、前月からの高値が中旬まで続き、下旬に値を下げたものの前年の約3倍と大幅に上回った。 6月は、上旬後半から中旬にかけて急騰したが、その後、前年並みまで下げたものの前年を大幅に上回った 期間全体としては、前年及び平年ともに大幅に上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:213%)

(参考1) 平成27年産春はくさいの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	98	102	73	79	95	90	108	123	87	94
	90			87			105			
過去5年平均比	99	85	81	75	83	82	95	129	89	90
	88			80			104			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	148	320	302	315	353	216	163	178	96	213
	242			296			141			
過去5年平均比	104	230	230	302	376	208	188	218	146	209
	175			290			188			

(参考2) 平成26年産春はくさいの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター

6. 平成27年産の春レタス需給・価格の実績

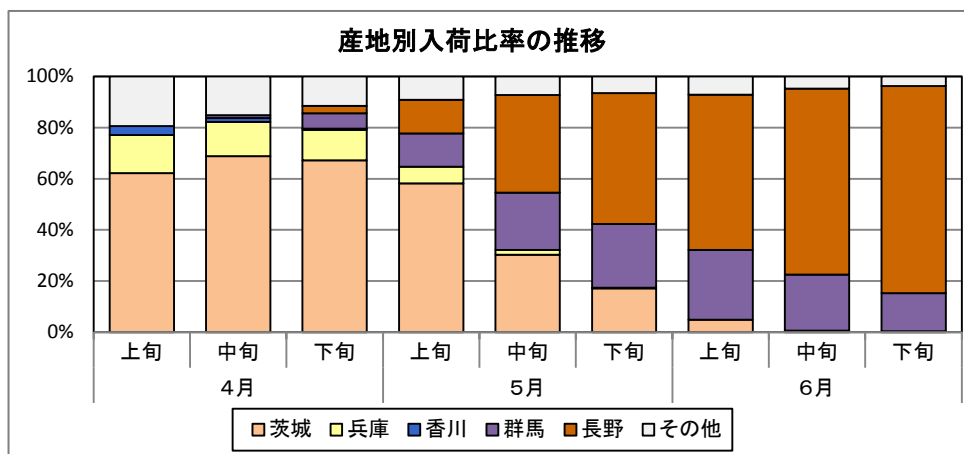
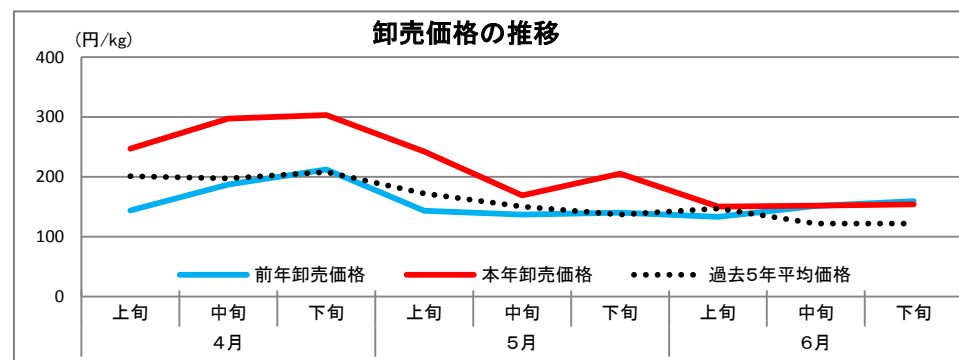
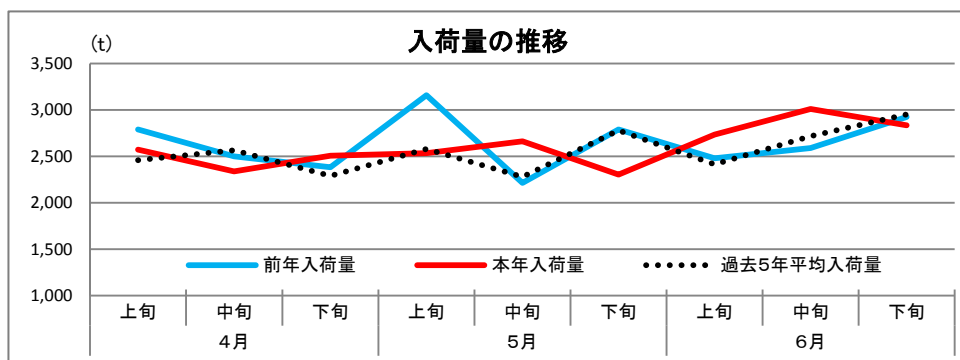
	前回の委員会(27.3.16)での見通し	実績(6月下旬時点)
<p>春レタス (4～6月)</p>	<p>(供給)</p> <ul style="list-style-type: none"> 出荷量は、主産地の生育が順調であることから、期間を通じて前年並みの見込み。 <p>(需要・価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 価格は、各主産地とも順調な出荷が見込まれることから、前年並みの見込み。 	<p>(入荷量)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、茨城県産において、天候不順もなく順調に生育したことから、前年並みであったものの、兵庫県産において、中旬の降雨により収穫遅れなどから前年を下回ったことから、前年をやや下回った。 5月は産地の切替え時期であり、後続の長野県産において干ばつの影響があったが、本格的な出荷となり前年を上回ったものの、茨城県産において、出荷終盤を迎え、上旬は多かった前年を大きく下回るなど前年を下回ったことから、前年をかなり下回った。 6月は、主産地の長野県産において、上中旬は病害の影響もなく順調な生育で順調であったが、下旬は低温や降雨で入荷が伸びなかったものの、群馬県産において、生育が順調で前年を上回る入荷となったことから前年をかなり上回った。 期間全体としては、前年をわずかに下回り、平年をわずかに上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場入荷量の対前年比:99%) <p>(価格)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月は、中旬に急騰して、下旬後半に値を下げたものの、月を通して高値水準で推移したことから安かった前年を大幅に上回った。 5月は、上旬は前月の高値から急落し、下旬後半も値を下げたものの依然として高値基調で推移し、安かった前年を大幅に上回った。 6月は、上旬半ばまで前月までの高値から平年並みまで急落したが、その後は前年並みで推移したことから前年を大幅に上回った。 期間全体としては、前年及び平年を大幅に上回った。 (4～6月の東京都中央卸売市場卸売価格の対前年比:135%)

(参考1) 平成27年産春レタスの入荷量と卸売価格の前年・過去5年平均比 (前年・過去5年平均をそれぞれ100とした場合の指数、東京都中央卸売市場)

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	92	94	105	80	120	83	110	116	97	99
	97			92			107			
過去5年平均比	105	91	110	98	117	83	113	111	96	102
	102			98			106			

	4月			5月			6月			期間計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
前年比	172	159	143	169	123	146	113	101	97	135
	157			146			103			
過去5年平均比	123	151	146	141	113	150	102	125	126	131
	139			135			118			

(参考2) 平成27年産春レタスの入荷量・産地別入荷比率と卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



資料：東京青果物情報センター